

「リスク」という言葉

最近「危機管理」ということが様々な場面で主張され「リスク」という単語が頻繁に使われるようになってきました。国防、財政、経営といった組織運営に関する分野だけではなく、投資や防災・防犯という個人に関係する分野でも広く使われています。しかし、これらの使い方について少し疑問に思うことがあります。それは本来「リスク」という言葉が「自ら覚悟して冒す危険」に対して用いられることが多いにも関わらず、「予期せぬ危険」にまで使用が及んでしまっていると思うからです。この背景には、危険や危機への負の側面のみが強調され過ぎて、過度にそれらを避けようとする傾向があるのではないかと想像されます。人生は平坦で安定した道程ばかりではありません。むしろリスクに取って挑戦することで能力や人間の幅を広げることができるという観点からすると、こうした傾向は危惧すべきことではないかと考えます。

このことを考えるうえで注目したい人物がいます。俳優の渡辺謙さんです。彼は国内の映画やドラマで成功を収めただけでなく、ハリウッド映画でも名声を得た国際派の俳優でもあります。さらに二度にわたる難病を乗り越え常に新たな活躍の場に挑戦し続けることでも知られています。その彼が今年55歳にしてニューヨークのブロードウェイミュージカル「王様と私」に主演として抜擢され、そのミュージカルがまたも好評を博しているといえます。

この挑戦を追ったNHKの番組「プロフェッショナル」によると、その成功の陰には幾多の試行錯誤や苦闘があったことが分かります。1950年代の初演以来何度も上演された不朽の名作、100ページに及ぶ英語の脚本、ネイティブでも難しい押韻を多く取り入れた歌そしてダンス。さらに王の威厳と苦悩を表現しつつ俳優の個性を演じなければならない。そして耳目の肥え辛辣な評価で有名なニューヨーカーの前に2か月間曝される。映像には表現できないほどのプレッシャーに押しつぶされそうになってもがく名優の苦悩が映し出され、名声を捨ててリスクに挑戦する姿が真に迫ります。「断崖絶壁であがく人生」と振り返る彼の姿に名優の名優たる所以が分かる気がしました。

その番組で彼は「与えられた環境・条件でベストを尽くすこと」を自分のモットーと語ります。それは「プライドを捨て失敗を恐れず、困難に対して諦めずに何度も何度も様々な方法を試して乗り越えようとする事だ」と気づかされます。安定を求めてリスク回避の傾向のある現代にあって、自分を信じて自己の可能性に挑戦する彼の姿に接し、取ってリスクを冒してみる勇気を与えられる思いがします。

(文責：今井雅)

11年の窓

7月の進研記述模試の結果が返ってきました。是非今後活かしましょう。

1 学力を全国と比較する (受験者数はセンター試験現役志願者数とほぼ同じ)

得点や偏差値、順位、GTZ (学習到達ゾーン) などから全国レベルでの学力を確認しよう。また、偏差値やGTZについても理解しよう。(配布された「100%振り返り BOOK」参照)

2 高校学習の学力のスタート地点を確認する

「教科バランス」では、国数英の学力を視覚的に確認し、全国偏差値50 (平均点) と比較しよう。1年生では国数英それぞれを苦手な教科にしないよう大きな正三角形を目指しましょう。

3 弱点を補強する

各教科の苦手な分野を「設問別成績」で確認し、全国平均得点率に届いていない分野を早急に補強しよう。返却された答案と解答解説を活用し必ず振り返りをしてください。(文責：西崎)

13年の窓

夏休みが終わり秋に入りました。センター試験まであと133日 (9月4日現在) です。

入学試験に向けて夏休みを上手く活用できたでしょうか？夏休みは基礎固めを中心に、秋からは応用問題や実践問題を解いて、実力をつけていくことを重視していく必要があります。理科や地歴公民の科目も学習内容が終盤に差し掛かっているため、夏に基礎固めをした単元も含めて、難しい問題にチャレンジしてみましょう。

さて、夏休み前に「自分の受ける大学の入試情報を必ず確認しなさい」という話を学年集会で話しました。確認しましたか？昨年までは旧課程の受験者を考慮したものになっていましたが、今年は違います。医療系をはじめとした大学で変更が相次いでいます。みなさんの手持ち資料は「昨年度」までのものですので、今一度大学ホームページでチェックしましょう。また、新課程入試への完全移行に伴い、新たな試験方式を始めた大学も増えています。これらをまとめた本 (栄光を目指して ver2) は9月中旬～下旬配布を予定しています。

さて、来月から推薦試験がスタートします。進路説明会でも取り上げるとは思いますが、10月から面接や小論文添削指導を行っていきます。指導を受けるには申込みが必要になるので、早めに申し込みをしてください。詳しくは進路の手引きP13を参照してください。(文責：竹腰)

12年の窓

7月に行われた進研模試の結果はどうでしたか。この時期の模試には、来年度に受験する、大学入試の攻略に必要な基礎的な問題が多く出題されています。余裕のある2年生のうちにしっかりと解きなおしをしましょう。

さて、この夏皆さんはオープンキャンパスに参加しました。大学という、高校とは違う環境を実際に肌で感じることで、自分の目指す進路先が少し身近になったのではないのでしょうか。9月から本格化するゼミ学習を活用して、自分のやりたいこと・やるべきことをより明確にして、憧れの大学に向けて努力してください。

今週で桔梗祭が終わりました。9月下旬には期末考査が、そして少し先ですが、10月末には5教科型の模擬試験がひかえています。気持ちをしっかりと切り替えて、「見通し」をもって次のステップに進んで下さい。夏休み以降の大きな躍進を祈ります！ (文責：立田)

○文系の窓○ え！？そんな学部・学科があるの？？

この夏休みに多くの生徒がオープンキャンパスに行ったと思います。大学の雰囲気を感じることができましたか？是非、感じたことを友達やクラスメイトと伝え合い、共有してもらいたいと思います。さて、今回の見出しにも書いたように思わず、「えっ？！そんな学部があるの？？」とつい言ってしまうような少し変わった（特殊な）学部・学科を紹介します。

1 吉備国際大学 文化財学部（岡山県）

名前の通り、文化財について学ぶ学部であり、二つの文化財修復国際協力学科とアニメーション文化学科に分かれます。前者の文化財修復国際協力学科は、歴史的文化財の保存、修復を中心に行う学科であり、全国的にも少ない特殊な学科のようです。後者は似たような学科が全国にもあり珍しくはないと思いますが、特殊な学科ですね。似た系統として京都精華大学のマンガ学部があります。この大学は全国で初めてサブカルチャーである「マンガ」を学部にしたことで有名です。

2 高野山大学 文学部 密教学科（和歌山県）

名前からお察しの通り、高野山には空海が建立した金剛峯寺があります。そんな名前がついたこの大学には文学部密教学科が存在します。この学科は空海思想を通して仏教文化、古典読解といった学問を修得することができます。

学部ではなかなか珍しいところが少ないようですが、学科（コース）まで深く調べていくと学びたいことをピンポイントで研究している大学もあるので、ぜひ探してみよう！！

（文責：波勢）

○理系の窓○ 理系学部の気質

最近医療系の大学に進学した卒業生に会う機会がありました。話を聞く中で、医療系の学部の特徴を感じました。医療系は就職と直結しているため、出席をととても大切にしている風潮があり、レポートを始めとした提出物が出なければ即、不可（高校の評定では1）になるとのことでした。また、実習の病院や就職斡旋についても、出席や試験、レポートなどの成績順で決まってしまうので、卒業生は「医療系はとて厳しく、多治見高校をもっと多治見高校にした感じ」と思うと話していました。この特徴は受験難易度の高い大学ほど強くなる傾向があるように思えました。

このような話を聞いているうちに、私が大学で感じた文系と理系の学問の違いを思い出しました。私は岐阜大学の教育学部物理学科を卒業しましたが、岐阜大学は幼稚園から高校までの教員免許状をとれる関係で、両方の科目の授業を履修しなければなりません。その中で、理系は「結果」を評価し、文系は「プロセスや努力」を評価する傾向があるのではないかと思います。例えば、理系の実験をする授業で結果がおかしな場合は、正しい範囲の結果がでるまで延々と実験をしなければいけません。例え100回実験をしようがやり直しです。私は大学院で大学1年生の実験指導(TA)をしていましたが、適切に行えば2時間で終了する実験を、23時間（休憩を挟んで）行ったことを覚えています。また、いくつかの授業では1回も授業を受けなくても試験で目標とする能力や知識を持っていることを証明すれば合格になりました。このように実力が問われるのか理系学部の気質です。入学試験は結果が問われる最初のステップです。頑張りましょう！！

（文責：竹腰）

☑総合学習の扉☑

2年生のゼミ学習は、10月からいよいよゼミ内での中間発表が始まります。夏休み中にしっかりと準備はできたでしょうか。夏休み中の活動には個人差があるとは思いますが、9月のゼミ学習でもまだまだ準備することもできます。まずは自分の進学後のために、そして、同じゼミに所属するメンバーにも勉強になるように、内容の濃い発表をする準備に取り組みしましょう。

準備とは、具体的には、研究テーマに関する本を読むこと、テーマに対しての自分の考えと本や論文を調べて明らかになった事実との違いを考察すること、何をどのように人に伝えるかを考えることです。中学校でも同じようなことをしたなという人がいますが、考察する内容をより深め専門的な知識を紹介してください。発表の資料をパソコンで作り、文字だけでなく図やグラフを加えて見やすいものを作ってください。発表の前には、聴く人に顔を向けハキハキと話すために、何度かリハーサルをしてください。いずれも簡単なことではないし、時間もかかりますが、大学に入った時や社会人として働き出した時に、同じ力が必要とされます。

テレビの『ほんまでっかTV』の学者さんたちのように興味深く、『しくじり先生』の先生のようにひきつけられるような発表を期待しています。

（文責：谷）

○Book Review○

『人生を変える 修造思考!』（アスコム、松岡修造）

みなさんは「この人すごいなあ」「こんな風になりたいなあ」と思える人はいますか。身近なところでも、テレビの中で見る有名な人でも、目標とできる人物がいるでしょうか。今日は私の憧れの人、松岡修造さんの本を紹介します。朝起きた瞬間から、夜眠るまで一所懸命で熱い松岡さんのエッセンスが、多治見高校のみなさんにちょっとずつでもプラスされたら、先日の文化祭もこれからの球技大会も普段の授業も、これまでに以上に盛り上がり充実したものになるんじゃないかなと思っています。

そこで『人生を変える 修造思考!』についてです。修造流の生き方が熱く紹介されていて、みなさんが勉強や部活動に臨むときの気持ちに変化を与えてくれそうです。内容の一部を紹介します。時間を最大限に使いつくすために「テレビはトレーニングしながら2倍速で観る」「移動時間が3分あれば本を開く」仕事を徹底して楽しみつくすために「小さな成功でも喜ぶクセをつける」「反復学習は工夫しながら繰り返す」絆を強くする関係をつくるために「話を聞くときは、最後まで聞いてすべてを受け止める」「謝るときは『申し訳ありませんでした』が先!」、等。

興味の湧いた人はぜひ読んでみてください。修造思考の一部を取り入れることで、私たちの毎日がますます輝けるといいですね。

（文責：谷）

